



医療センターでは建て替えの計画を進めています。新病院の計画は、医療センターで抱えている問題や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、医師や看護師など病院スタッフで議論を重ねたもので、これまで以上に市民の皆さんの命を守っていくことができるものとなっています。

新病院建設Newsでは、この新病院の計画や医療センターが担う機能や役割などをお伝えしています。 院長 丸山 尚嗣

## 今回の内容

### 医療センターにおける新型コロナウイルス対応

世界的に流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）では、医療センターでも令和2年3月に患者さんを受け入れて以降、未知の感染症に対し様々な対応を行いながら、多くの患者さんを受け入れてきました。今回は、医療センターでどのような対応をしてきたか、またこれらの経験を新病院の計画にどのように反映しているかについてご説明します。

## どのような対応をしてきたか

### 受け入れ体制の確保

令和2年3月に新型コロナウイルス感染症患者専用病棟を設置して以降、感染状況に応じて病床数を調整しながら、令和5年10月まで受入病床を確保してきました。最大では38床の受入病床を確保しました。感染拡大時は、一部の病棟を閉鎖することや、待つことのできる手術・入院を延期させていただくことで、対応する医療従事者の確保に努めました。

### 院内感染対策（ゾーニング）

院内感染防止のため、感染症患者さん、感染の疑いがある患者さん、それ以外の患者さん及び医療従事者を適切にゾーニングするための対策を行いました。

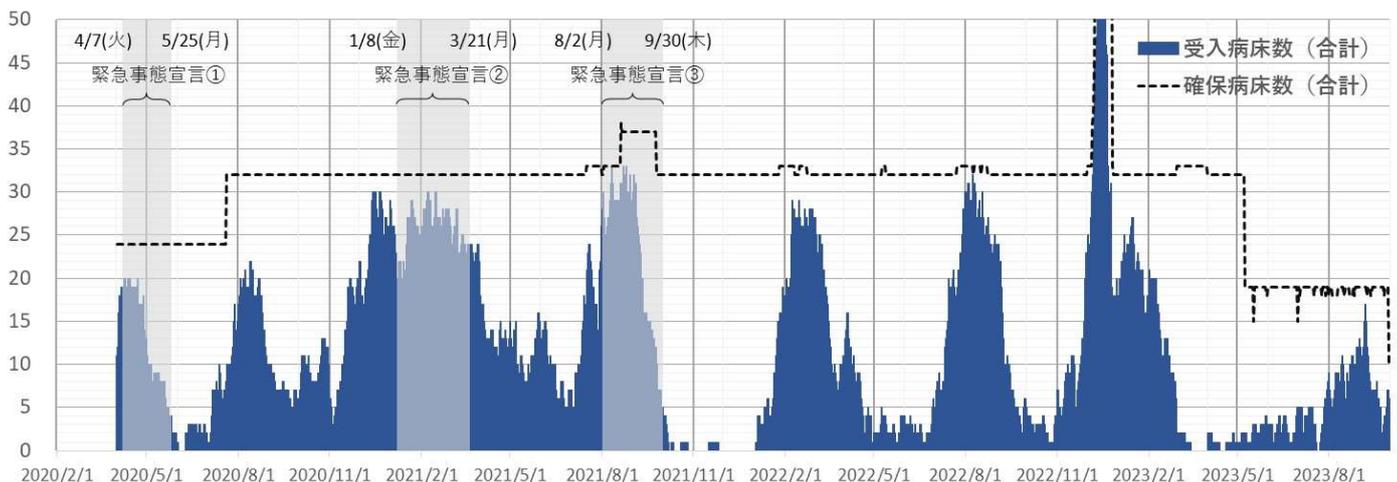
- ・ 感染症外来診察室や有熱者待合の設置
- ・ ビニルカーテンやアクリル板の設置
- ・ 出入口の制限
- ・ 受入病棟におけるエリア分け

### 院内感染対策（持ち込み防止）

患者さんには、付き添いの方を含め、院内に入る際にマスクの着用と検温をお願いしてきました。また、感染拡大状況に応じて、入院患者さんへの面会制限・禁止をお願いしてきました。病院で働く職員は、自己健康管理徹底や感染対策研修会の実施などの取り組みを行いました。

### 院内感染対策（医療機器等の購入）

感染症患者さんを受け入れる病室への空気清浄化ユニットや換気扇の設置、補助循環装置（ECMO）や移動型X線装置、PCR装置といった感染患者診療に必要な機器の購入、ゾーニングに必要な備品の購入などを行いました。



グラフ：船橋市立医療センターにおける受入・確保病床の推移

## 施設・設備面での対応



正面玄関にて、来院された方の検温を行いました。当初は職員が非接触型の検温器で測定しましたが、後にサーマルカメラを購入し、画面をみて体温を測定する方式に切り替えました。



来院された方の検温や体調確認をしっかりと行うために、出入口を制限させていただきました。



有熱患者さん専用の待合エリアや個別ブースを、正面玄関や小児科外来付近などに設置しました。



患者さんを受け入れる病室には、感染対策のための空気清浄化ユニットを設置しました。



既存建物を改修して、感染症外来診察室を設置しました。カメラ・モニタにより遠隔でのやり取りもできるようにしました。



患者さんの治療や検査を行うための医療機器も購入しました。写真上は移動式X線装置、写真下はハイフローセラピー（呼吸管理に用いる機器）です。



外来に設置した陰圧ブースです。感染の疑いのある患者さんの検査は、こういったところで行いました。

写真でご紹介した以外にも、様々な対応をして、患者さんの受入れ、治療に尽力してきました。

## 新病院計画に反映させるために

令和3年度に以下の調査などを行い、その結果を踏まえて、新病院における感染症対応の方針を整理しました。

### 感染症対応の整理

新型コロナウイルス感染症への対応をする中で、問題となっていることをあげ、課題として整理しました。

### 院内アンケートの実施

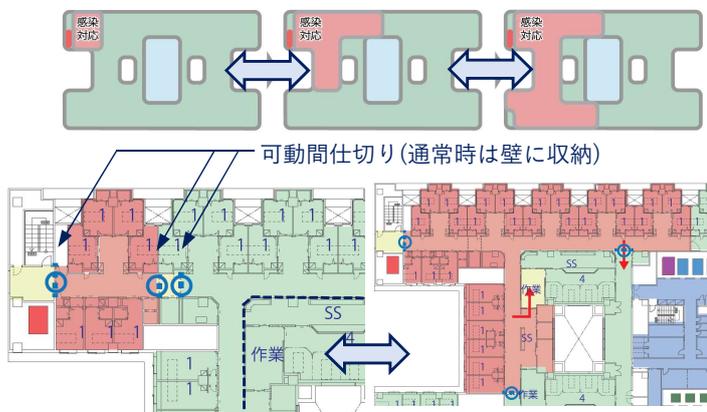
各部門へのアンケートを行い、問題となっていることや新病院計画で考慮すべきことなどを整理しました。

### 事例調査

他病院における対応事例の調査や視察を行い、新病院計画に反映できることを整理しました。

# 新病院の感染症対応計画

新病院における感染症への対応については、新病院建設News第5号でご紹介しましたが、本号ではもう少し詳しくご紹介します。



## 感染拡大状況に応じたフレキシブルな病棟運用

感染拡大状況に応じた運用ができるように、あらかじめ可動間仕切りを設置しておき、閉閑操作で簡単にゾーニングができるようにします。



ガラススクリーンイメージ

また、スタッフステーションはこの病棟のみ、ガラススクリーンで廊下と区画する計画となっています。

## 感染患者動線の確保

通常時は救急用として使用するエレベーターを、感染症対応として使用します。感染患者対応に必要な諸室をこのエレベーターに近接して配置します。

2階HCUを感染症重症患者受入病棟対応に切り替えます。また、陰圧切替可能な手術室を、専用エレベーターに近い位置に配置します。

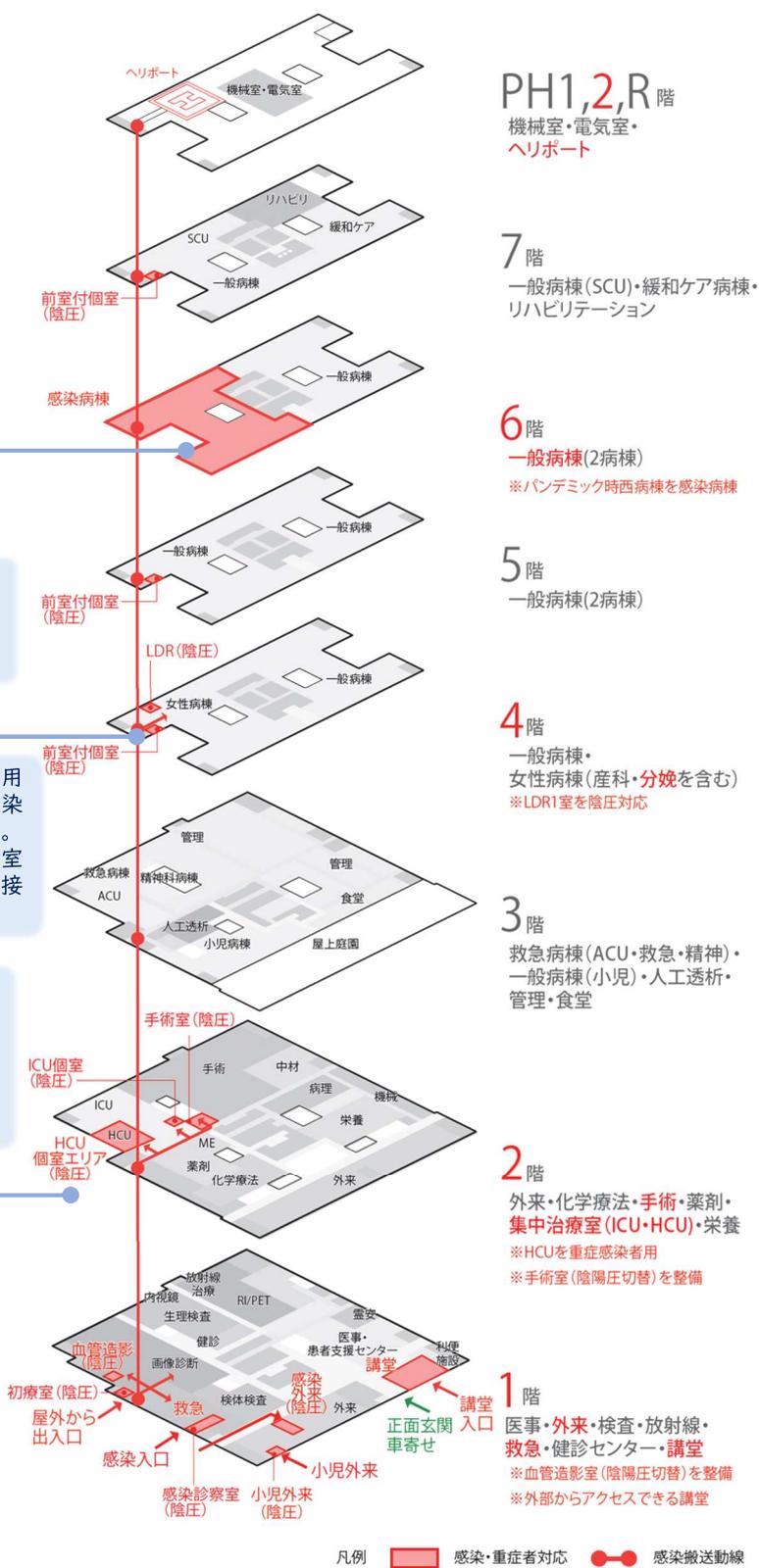
## 感染症重症患者への対応

### 院内アンケートではどのような意見が出たの？

アンケートでは、主に施設面（ハード面）で、「現病院における対応で困ったこと、改善できなかったこと」や「新病院で新たに取入れたいこと」などの意見を聞きました。

困ったこと、改善できなかったこととして、動線・ゾーニングに関する意見が多く、感染患者・感染疑い患者と一般患者・職員の動線が分離できなかったことなどが課題としてあげられました。

また、空間の不足、発熱(疑い)患者対応、陰圧対応に関する意見も多くあげられました。



次号のテーマは「新病院の工事について」を予定しています。

